

路上EVカーシェアステーションの導入

今後のモビリティのシェアリング社会に対応するためには、バスタのような大きな交通拠点に加えて、道路空間を活用しながら、身近な場所への「小さな交通拠点」をあわせて整備することが必要です。全国では、駅周辺の道路の路側に、カーシェアステーションを設置する実験が行われています。近畿地方整備局では、これを環境の観点で進化させた「EVカーシェアステーション」の取組みについて、官民連携での検討を進めます。

実験：カーシェアステーション

東京



大手町駅及び新橋駅に近接した国道の道路上にカーシェアリングステーションを設置し、有用性等を検証や新たに複数人の乗車が可能な車両へ車種を拡大した社会実験を実施中（平成28年12月～）

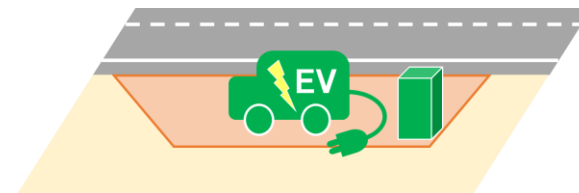
仙台



仙台駅東口から楽天スタジアム等へつながる宮城野通において、広幅員の道路空間をフルに活用し、「賑わい・モビリティ・物流」の複数種類の交通モードが共存する道路空間の社会実験を実施（令和4年4月～令和5年3月）

EVカーシェアステーション

大阪



設置イメージ

- 鉄道駅の近傍やビジネス商業等の中心地等で、歩行者・自転車の妨げにならない場所を選定
- 急速充電器タイプや非接触のワイヤレス給電タイプなど充電方式も含めて、官民連携による実験を検討